

令和6年度 研修概要

内 容：座学^(※)、実習、首里城復元現場 及び 先進地視察

(※文化財概論、木彫刻技術、沖縄の建築と技術 等)

期 間：令和6年9月～令和7年3月

人 数：建造物木工分野 4名、木彫刻分野 1名

首里城歴史文化継承基金事業の研修状況

建造物木工実習

沖縄伝統建築の屋根構造について、仕口の加工・組立てを学ぶ実習



木彫刻実習

首里城正殿に施される木彫刻装飾（透かし欄間）をモチーフとし彫刻技術を学ぶ実習



復元現場視察

首里城正殿復元工事現場及び髹漆作業場等、首里城正殿復元現場の視察



先進地視察

金沢城公園の復元建築や首里城正殿唐破風妻飾の彫刻作業場の視察（石川県、富山県）



中城御殿跡地整備 実施設計



御内原エリア(有料区域)

(展示・収蔵、管理)

〔往時は大御殿、御内原〕

- RC造、外観再現
- 貴重な展示資料を活用しながら、琉球王国及び文化の発展について多様な物語を発信

上之御殿エリア

〔往時は別宅(上之御殿)〕

- 遺構の保全と緑地の整備
- 首里城への眺望を楽しむ場

表御殿東側エリア

(展示・鑑賞)

〔往時は御番所、御広間・御書院、庭園等〕

- 木造建物・琉球庭園の復元(施設そのものが展示物)
- 鑑賞・休憩、体験

表御殿西側エリア(無料区域)

(導入/体験・交流)

〔往時は王家関連の役人詰所や台所等〕

- RC造・外観再現
- 施設案内、体験・交流、情報発信の場とする

R7.6月撮影

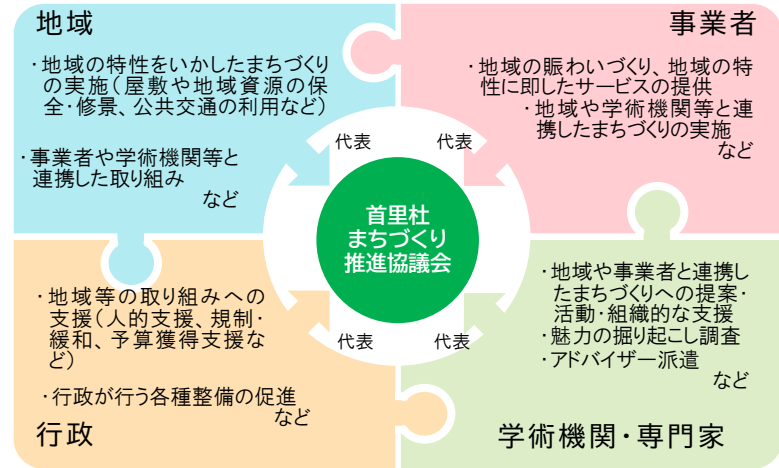
基本施策6.「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進 (1) 歴史を体験できる風格ある都市空間の創出 首里杜まちづくり推進協議会 (令和4年9月設立) の概要



令和6年度の活動概要

- ①各主体が進める事業の内容確認／進捗確認
- ②部会におけるテーマ別活動の推進
- ③持続可能な観光ワーキンググループにおける検討
- ④首里杜地区のまちづくりや協議会に関する情報発信

テーマ活動状況



事務局体制

地域事務局を首里杜まちづくり団体連絡協議会、市事務局を那覇市都市計画課、県事務局を沖縄県首里城復興課に設置し、協議会の調整やとりまとめを行う。

テーマ活動① 先行地域における活動について講演会の開催

目的 観光地として有名な伏見稲荷大社周辺でのオーバーツーリズムや課題への対応の先進事例を学ぶ

活動概要 「伏見稲荷大社周辺の住みよいまちづくり推進協議会」から講師を招き、これまで取り組んだ事業・活動や現在進行中の施策についての講演会を実施した。令和8年秋の正殿復元を控える首里杜地区でも同様の課題が想定されるため、良い事例・悪い事例の学びを得た。

テーマ活動② 首里杜地区の「観光に資する道」・「観光資源」を考える

目的 首里杜地区の「立ち入り」や「周遊ルートとして誘導したい道・地域資源」について、交通と観光の両面から考える

活動概要 ニシカタ地区・三箇・金城町等の3地区別で、地域と観光が両立した首里杜地区での取り組みを考え、参加者が自分事として、持続可能な地域づくり・観光まちづくりに向けた取り組みを考え、6つの案を成果とした。

テーマ活動③ 持続可能な観光に向けた取り組みの検討

目的 「首里を大切に観光」に対する観光客・地域住民の意識醸成を進め、受け入れ態勢を整え、オーバーツーリズムの影響を予防する。

活動概要 「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」を用いて、首里杜地区でできる指標・取組を検討した。「暮らしと観光の交通改善」・「安全」・「振興」をロードマップに紐づく指標(案)として作成した。今後は、地区のルール(規範)を作成し、周知を進めていく。

世持橋整備工事の概要

事業概要

内 容：首里城周辺の歴史文化資源の再現整備として、龍潭近くの世持橋勾欄の製作工事を実施する
仕 様：龍潭側の勾欄を整備対象とし、遺物と同じニービ素材（細粒砂岩）で製作する
特徴である羽目の優れた彫刻を含め、往時の姿をできるかぎり再現する
転落防止機能を持たせるが歴史的景観を阻害しないように配慮する

位置



古写真



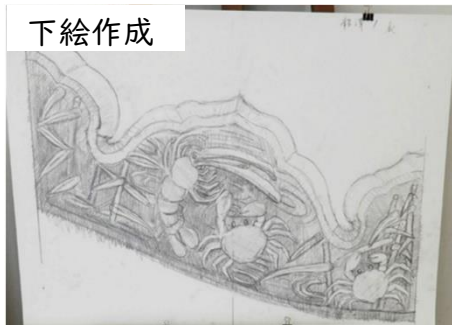
【参考】戦前撮影、那覇市歴史博物館提供） 154

イメージスケッチ（道路側）



令和6年度 製作状況

下絵作成



粘土模型作成



石膏原型作成

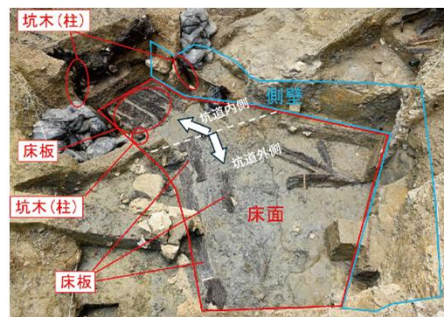


第32軍司令部壕保存・公開事業

沖縄戦の軍事的中枢施設であった第32軍司令部壕は、沖縄戦の実相を次世代に語り伝えるために極めて重要な歴史的戦跡であることから、同壕の保存・公開に向けて必要な詳細調査、文化財指定、保存・公開基本計画の策定、ガイドテキストの作成等を行った。

1. 詳細調査の実施

- 第1坑口では床板や坑木、第5坑口では石積みの発見等、当時の状況が確認できた。



第5坑口の発掘状況 (2025 (令和7年) 3月時点)

2. 文化財指定への取組

- 第32軍司令部壕に係る文化財指定の手続きを行い、令和6年11月29日付けで沖縄県指定史跡に指定した。

3. 保存・公開基本計画の策定

- 整備や活用策の基本となる第32軍司令部壕保存・公開基本計画を令和7年3月に策定した。

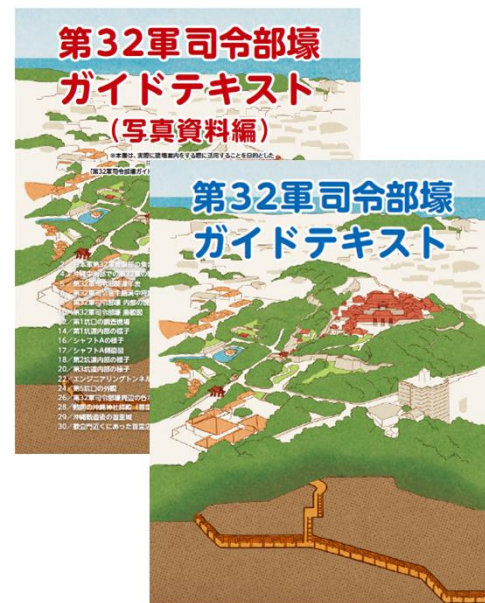
第32軍司令部壕保存・公開基本計画



令和7年3月
沖縄県

4. ガイドテキストの作成

- 見学者に史実等に基づき説明できるガイドの養成のため、収集した資料や証言等を活用したガイドテキストを令和7年3月に作成した。



(1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識

所管課:文化観光スポーツ部 文化振興課

県は、先人達が創り上げてきた沖縄の歴史と文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成に取り組むとともに、新たな歴史と文化を県民自らの手で創造することを図るため、「琉球歴史文化の日条例」を制定し、11月1日を琉球歴史文化の日とした。琉球歴史文化の日とその趣旨について普及・啓発するための広報活動と、県民が沖縄の歴史と文化への理解を深めるための関連事業を実施した。

1. 琉球歴史文化の日記念公演

- 「琉球歴史文化の日」記念イベントとして、組踊鑑賞教室「万歳敵討」を上演した。

日時：令和6年10月30日（水）～11月1日（金）

各日2回、計6公演

会場：国立劇場おきなわ 大劇場

入場者数 2,842名（うち児童生徒数2,467名）

2. 周知・啓発

- 県内各地の小中学校にて組踊に関するワークショップを実施した。本島北中南部より各1校を選出
児童計 303名が参加
- 「琉球歴史文化の日」特設HPにて、市町村や県内文化団体が実施する関連事業 67件を掲載



(I) 国内外の学術ネットワークとの連携（シンポジウム開催）

沖縄県・沖縄県立芸術大学・琉球大学共催

第21回
琉大未来共創フォーラム

首里城復興 学術ネットワーク シンポジウム2024

～令和の復元でできる新しいこと～

令和6年
日時 **10月14日** [月・祝]
13:00 ▶ 17:20 (12:30 開場)

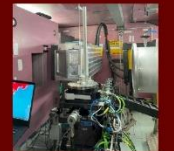
会場 沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）
沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

定員 **100名** (申込み先着順)

参加費無料
事前申込制
お申込みはこちらから








◇プログラム（予定） 歴史文化・教育・まちづくりなど、首里城に関連した多様な研究や取組を共有します /

13:00	開会挨拶（沖縄県立芸術大学 副学長 久万田 晋）
13:05	第一部 基調講演 安里 進氏「令和の首里城復元～新たな知見への異なる対応」 藤井 恵介氏「再建首里城の価値とこれから」
14:30	第二部 パウル・ラングナー氏「首里城復興における赤瓦とその無形文化遺産」 口頭発表（2題） 小林 理気氏「自然科学的のデータを含む文化財デジタルアーカイブのあり方と活用方法」
15:15	第三部：ポスターセッション（発表13題）
16:20	第四部 パネルディスカッション 「令和の復元でできる新しいこと」
17:15	閉会挨拶（琉球大学長 西田 睦）

イベント詳細はこちらからもご確認ください



協力：NPO法人首里まちづくり研究会、SCSK株式会社
後援：内閣府沖縄総合事務局、那覇市、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
問い合わせ先：琉球大学 総合企画戦略部 地域連携推進課
Mail: chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp 本フォーラム2日前～当日のお問い合わせは対応いたしかねますのでご了承ください。

県、琉球大学、県立芸術大学の三者共催により、行政、芸術、人材育成、学術の面から首里城復興と沖縄の歴史文化復興に関するシンポジウムを開催。

【日時】 令和6年10月14日(月・祝日)

【会場】 沖縄県立博物館・美術館

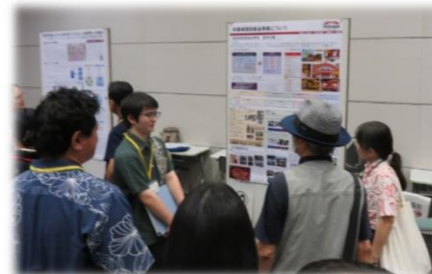
(シンポジウムの様子を琉球大学地域連携推進機構 YouTubeチャンネルにてアーカイブ配信)



YouTubeリンク →



基調講演



ポスターセッション



パネルディスカッション

(3) 県民等の継続的な参加による復興（ナンバープレート導入）

県では、「地方版図柄入りナンバープレート」の制度を活用し、首里城復興への願いを含めて、「首里城」を取り入れたデザインの自動車ナンバープレートの普及促進を図っている。令和5年10月から交付がスタートし、令和7年3月時点で13,104枚が発行された。

カラー版を選択した際の寄付金により、公益財団法人日本デザインナンバー財団から令和6年度首里城公園のイベント「首里の朝市」の助成が行われた。



カラー版



モノクロ版



令和6年10月6日 首里の朝市(首里城公園)



令和5年10月23日
首里城ナンバープレート
交付記念イベントを実施

(3) 県民等の継続的な参加による復興（首里城復興「お出かけ講座」）

事業概要

首里城に象徴される琉球の歴史・文化を次世代へ継承するため、児童、生徒が復興を通して学ぶことのできる機会として出前講座と首里城正殿工事の際に生じた木材の端材を活用したモノづくりイベント（かな削り・スマホスタンド作成）を実施。

商業施設で4回、小・中・高校で計6回（合計10回）実施

実施日・参加人数

場所	日付・曜日	講座	かな削り	スマホスタンド作成
商業施設（南部）	11/24・日	62名	40名	64名
商業施設（中部）	11/30・日	46名	72名	61名
商業施設（北部）	1/26・日	107名	39名	60名
久米島	2/16・日	45名	54名	38名
計		260名	205名	223名

場所	日付・曜日	講座・かな削り	スマホスタンド作成
高校（中部）	12/18・水	104名	60名
小学校（北部）	1/15・水	24名	24名
中学校（南部）	1/21・水	100名	100名
高校（南部）	2/19・水	20名	20名
中学校（南部）	2/21・金	106名	111名
小学校（北部）	2/25・火	13名	14名
計		367名	329名

首里城復興「お出かけ講座」の様子



久米島での実施



高校での実施



かな削り体験の様子

(3) 県民等の継続的な参加による復興（首里城火災破損瓦等の活用）

首里城火災で焼け残った瓦や石材を首里城の思い出として活用したいとの声を受け、首里城への「思い」を多くの人が共有し、形として残していくことを目的に、破損瓦等活用事業を実施。活用希望者に破損瓦等を配布し、様々なイベントや活動に活用されている。



首里城破損瓦・石材利活用コンクール開催

令和5年9月～令和6年2月にかけて、沖縄県内の教育機関等を対象に、破損瓦・石材を活用したコンクールを実施したところ、沖縄県立那覇西高等学校が最優秀賞に選ばれた。

